

平成18年度 長久手町住民意識調査結果 ダイジェスト版



長湫南保育園



学校の森づくり



市ござらっせ【福祉の家】

長久手町では、現在「第4次長久手町総合計画」（平成11年3月策定）にもとづいたまちづくりを進めています。

今後の町政を進めていくにあたり、これまでの成果を検証し、住民のみなさまのお考えやご意見をお伺いするため、平成19年2月に住民意識調査を実施しました。

この調査は、18歳以上の住民のみなさまから3,000人を無作為に選び、ご協力をお願いしました。その結果1,680人の方からご回答をいただきました（回収率56.0%）。

このほど調査結果がまとまりましたので、概要をご報告します。

ご協力をいただいたみなさまには厚くお礼を申し上げますとともに、町政に対する一層のご理解とご協力をお願いいたします。

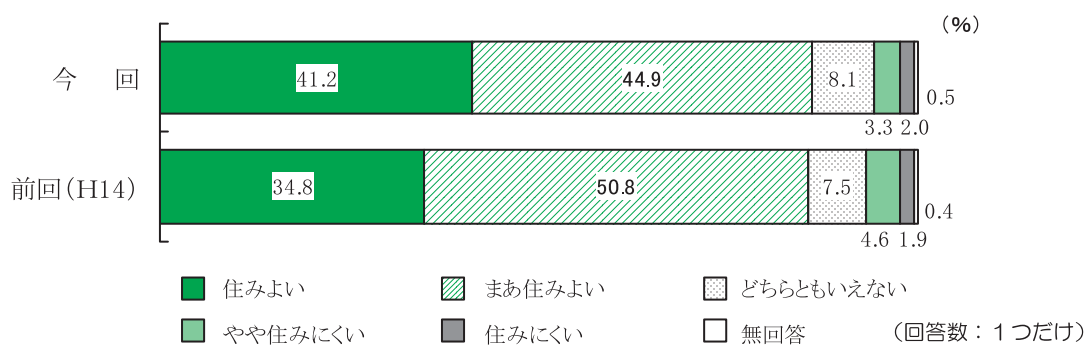
平成19年3月

長久手町

住みごち

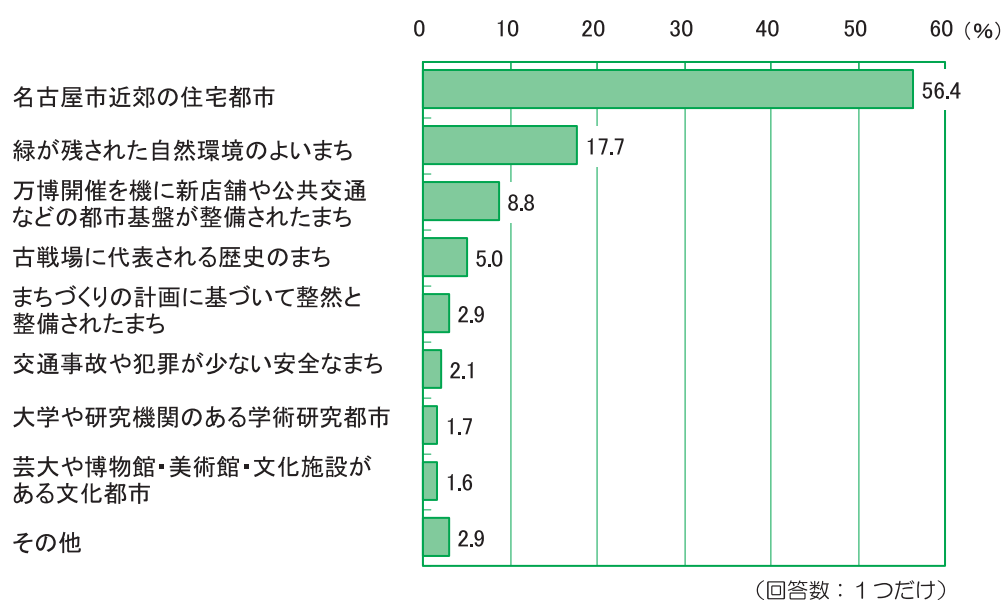
「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせると8割を超える人が、長久手町を“住みよい”と回答しています。

前回調査（平成14年）と比較すると、「住みよい」と答えた人は6.4ポイント多くなっています。



まちの印象

約6割の方が「名古屋市近郊の住宅都市」というイメージを持っています。



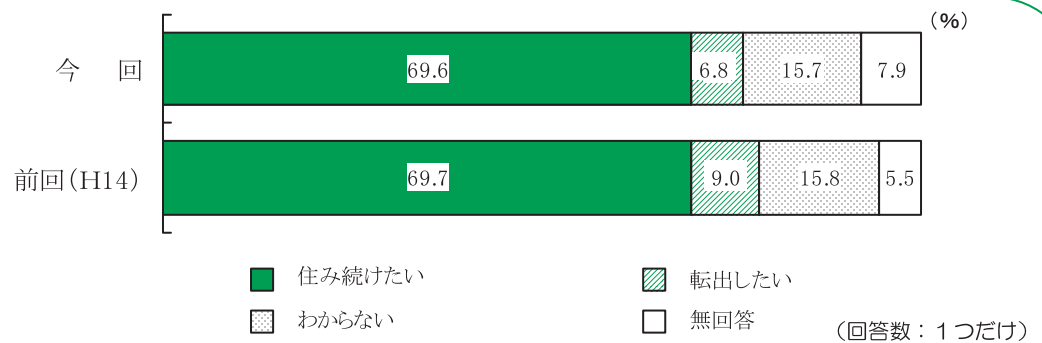
定住意向

約7割の方が今後も長久手町に「住み続けたい」と回答しています。前回調査と比較しても顕著な変化はみられません。

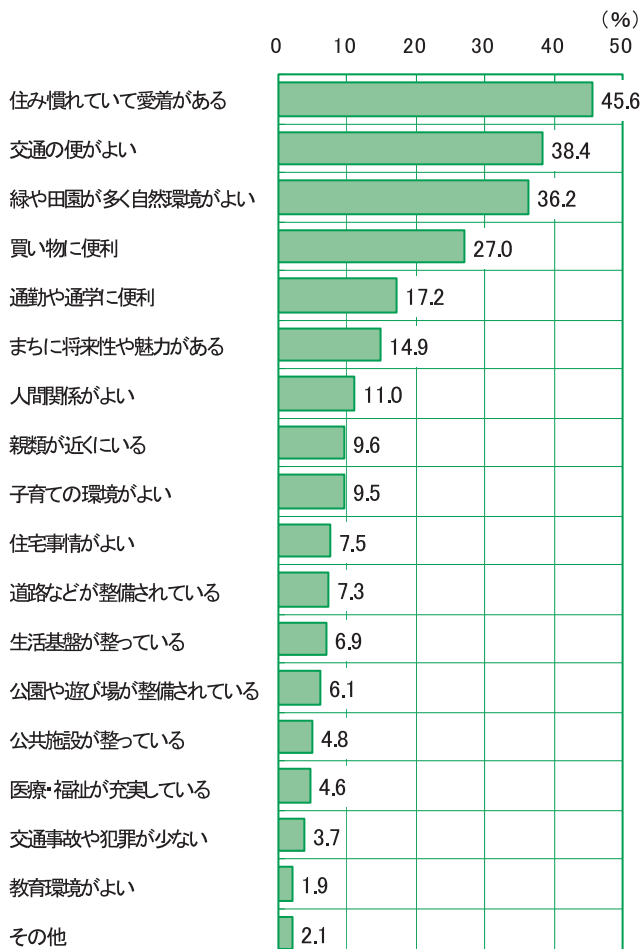
また、住み続けたい理由としては、「住み慣れていて愛着がある」が最も多く、「交通の便がよい」「緑や田園が多く自然環境がよい」「買い物に便利」といった生活全般での住みやすさが評価されています。

一方、転出したいと回答された方の理由は、「交通の便がよい」「まちに将来性や魅力がない」「買い物に不便」などが挙げられています。

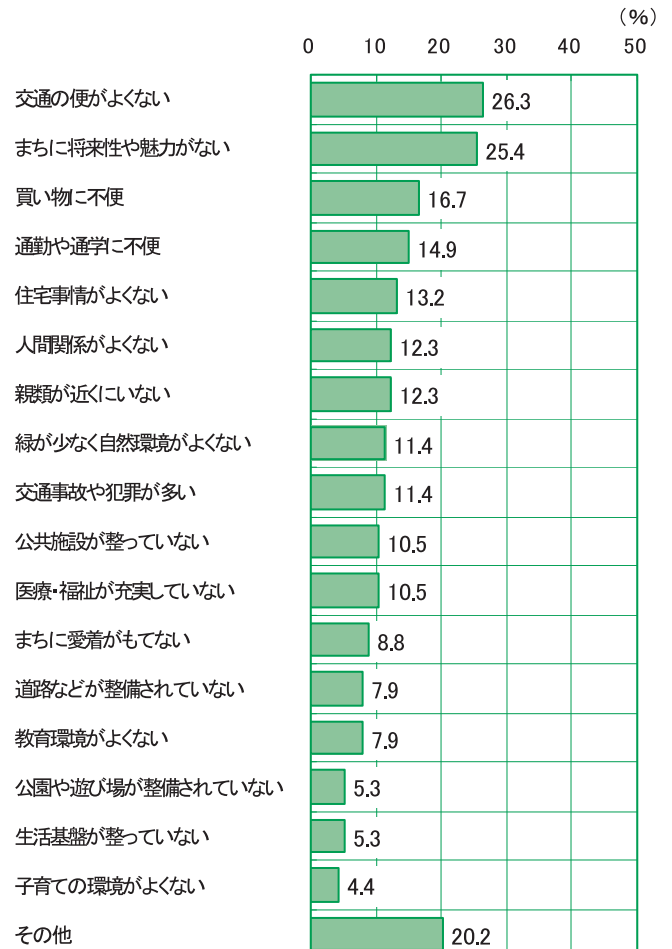
【今後の居住意向】



【住み続けたい理由】(全体=1,170人)



【転出したい理由】(全体=114人)

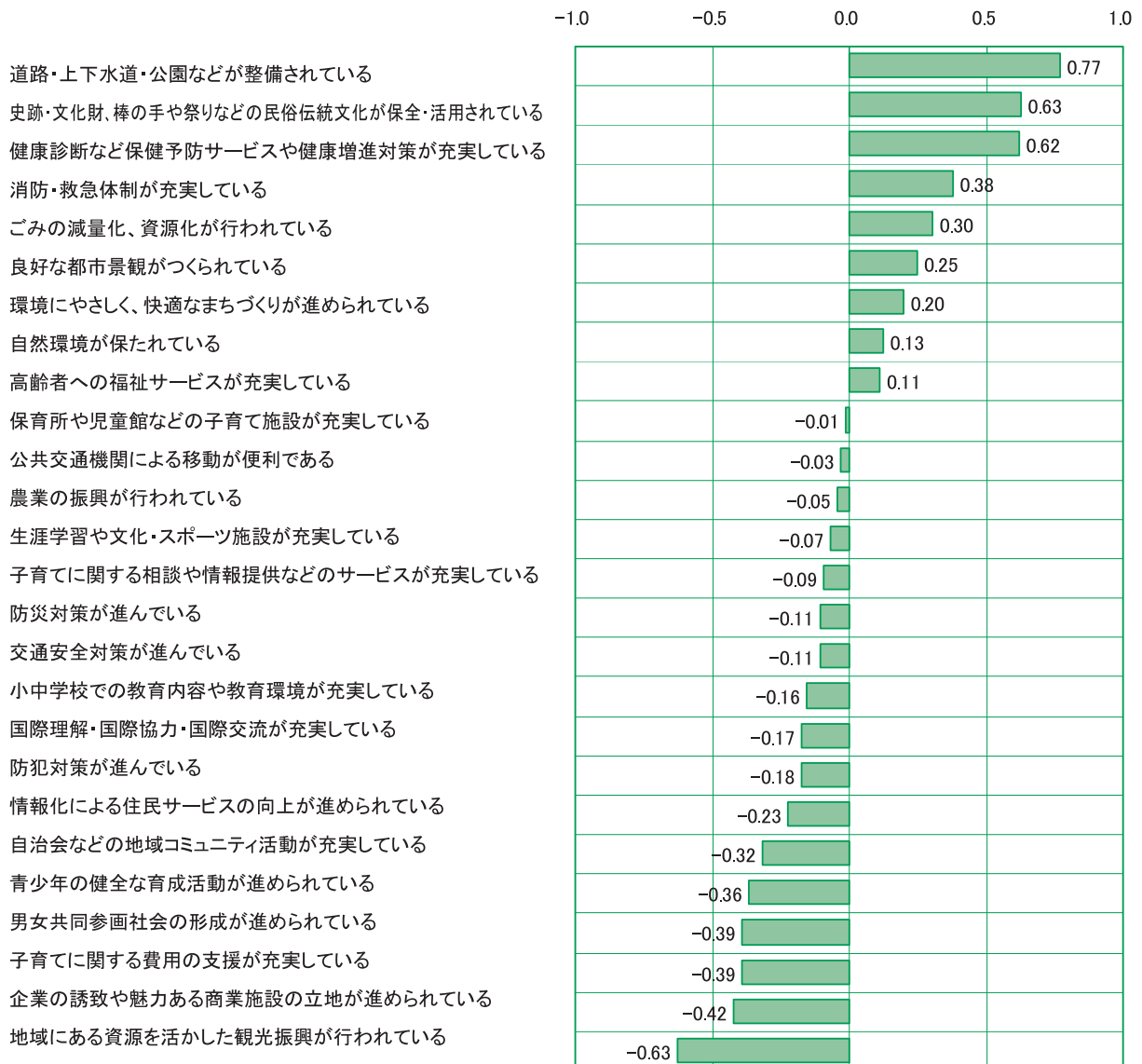


施策の推進状況評価

第4次長久手町総合計画で掲げている4つの施策の大綱の中の26項目について、「進んでいる」「どちらともいえない」「進んでいない」の3段階で施策の推進状況に対する評価を行っていただきました。

そこで、「進んでいる」を2点、「どちらともいえない」を0点、「進んでいない」を－2点として得点化しました。『道路・上下水道・公園などが整備されている』が最も高く、『史跡・文化財、棒の手や祭りなどの民俗伝統文化が保全・活用されている』『健康診断など保健予防サービスや健康増進対策が充実している』と続いています。

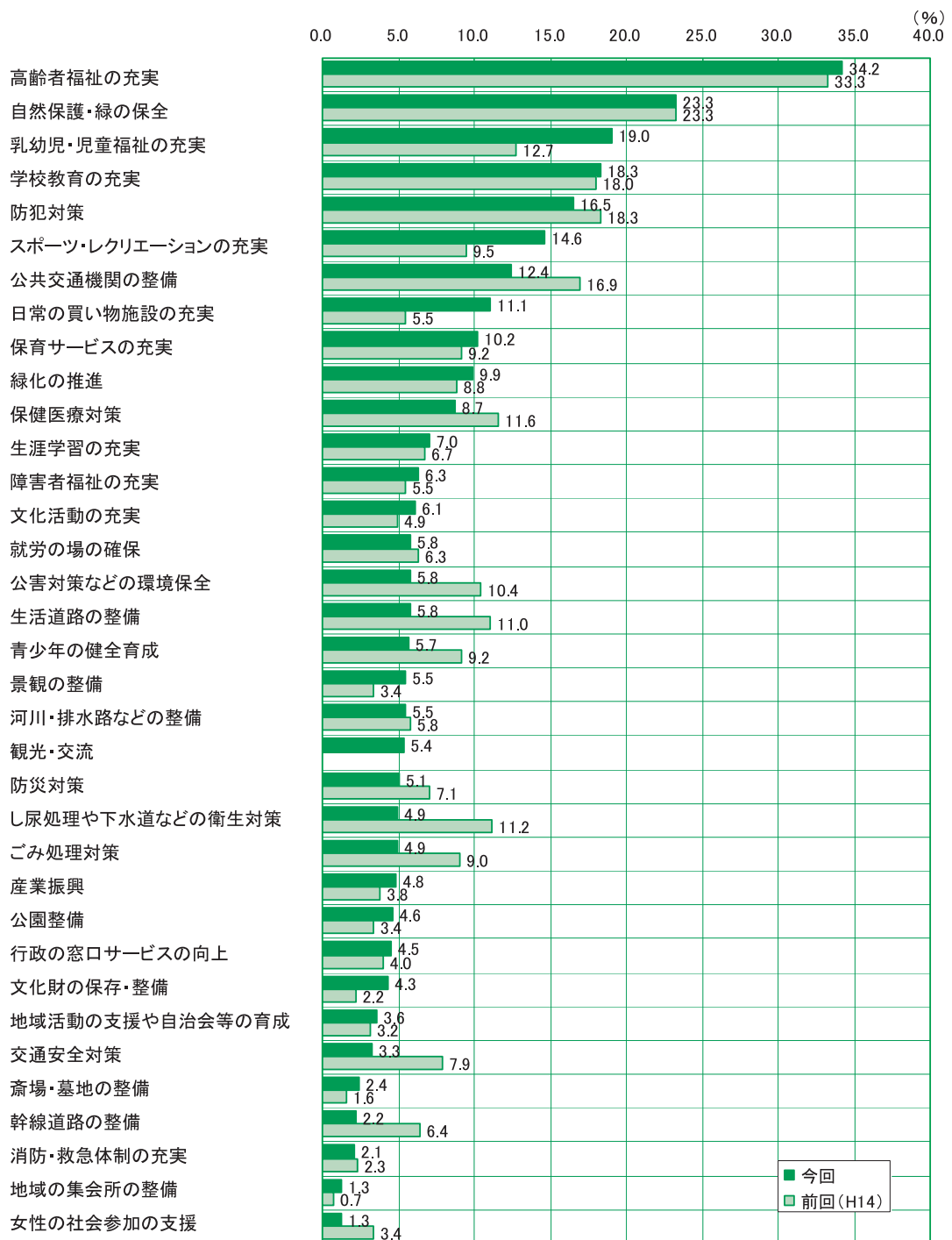
一方、『地域にある資源を活かした観光振興が行われている』が最も低い項目となっています。



今後の重点施策

長久手町が今後力を入れていくべきことは、第1位が「高齢者福祉」、第2位が「自然保護・緑の保全」、第3位が「乳幼児・児童福祉の充実」、第4位が「学校教育の充実」、第5位が「防犯対策」となっています。

前回調査と比較すると、「乳幼児・児童福祉の充実」「スポーツ・レクリエーションの充実」「日常の買い物施設の充実」が5ポイント以上増加し、逆に「生活道路の整備」「し尿処理や下水道などの衛生対策」が5ポイント以上減少しています。

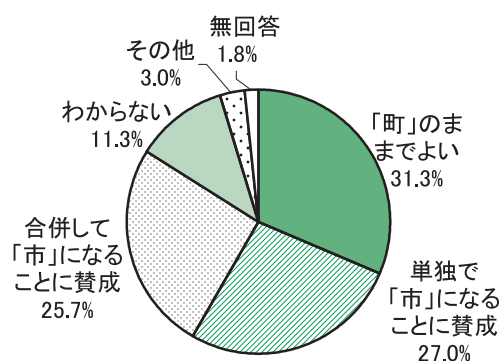


(回答数：3つまで)

市制施行・合併

長久手町では、数年後には市になるための要件である人口5万人を超えることが予想されるため、「市」になることについて尋ねました。

「『町』のままでよい」「単独で『市』になることに賛成」を合わせると、約6割の方が合併せず現在の町域を望んでいます。一方、単独・合併を問わず「『市』になることに賛成」と回答した方が半数を超えています。



(回答数：1つだけ)

田園バレー事業

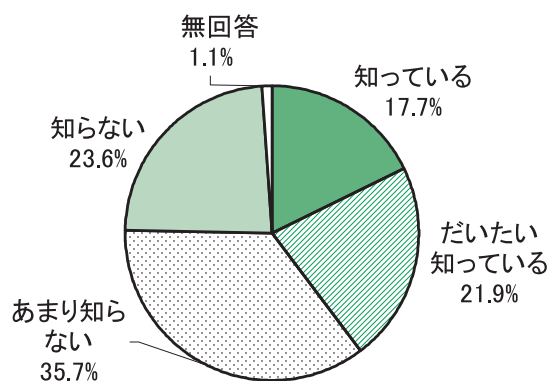
田園バレー事業は、第4次総合計画の主要プロジェクトの1つで、農のある暮らし・農のあるまちの実現を目指し、環境教育を行う「平成こども塾」の開設とその活動場所となる「丸太の家」のオープン、長久手ふれあい農園「たがやっせ」「長久手農楽校」、NPO法人の農業参入支援などを行っています。

さらに、この4月25日には田園バレー交流施設「あぐりん村」がオープンします。

田園バレー事業の認知度は、4割程度となっています。

事業継続のために必要な施策は、「散歩道やサイクリングロードの整備」「自然とのふれあいを体験できる施設整備」が、それぞれ約4割となっています。

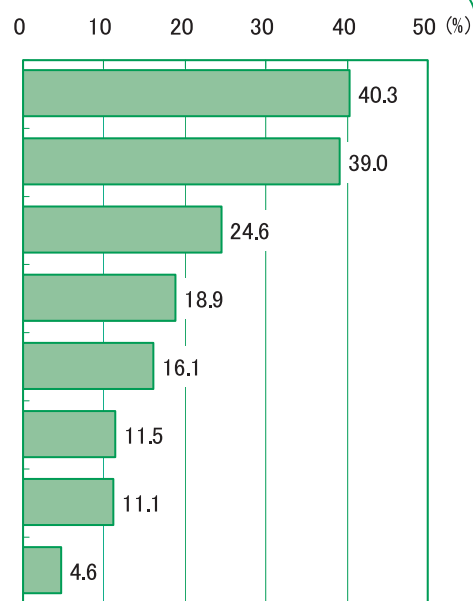
【田園バレー事業の認知度】



(回答数：1つだけ)

【今後の必要施策】

気持ちよく散策できる散歩道やサイクリングロードの整備
農地や周辺の緑地等を保全し自然とのふれあいを体験できる施設整備
長久手町独自のブランド品の開発支援
休耕地を利用した市民農園や体験農園の拡充
生ごみや街路樹の剪定枝葉などを利用した有機農業の推進
情報ステーションや農業相談窓口の設置などの情報発信の充実
長久手町田園バレー交流施設「あぐりん村」での交流事業の実施
その他

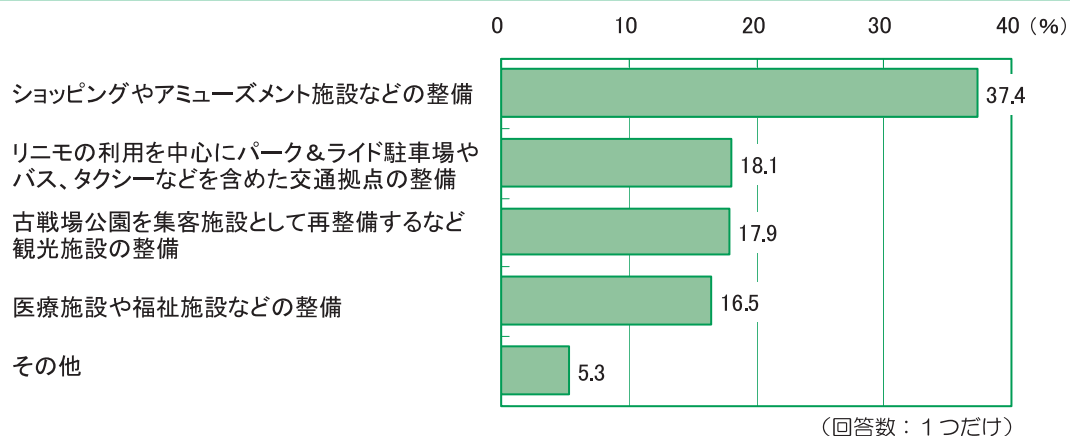


(回答数：2つまで)

長久手中央地区のまちづくり

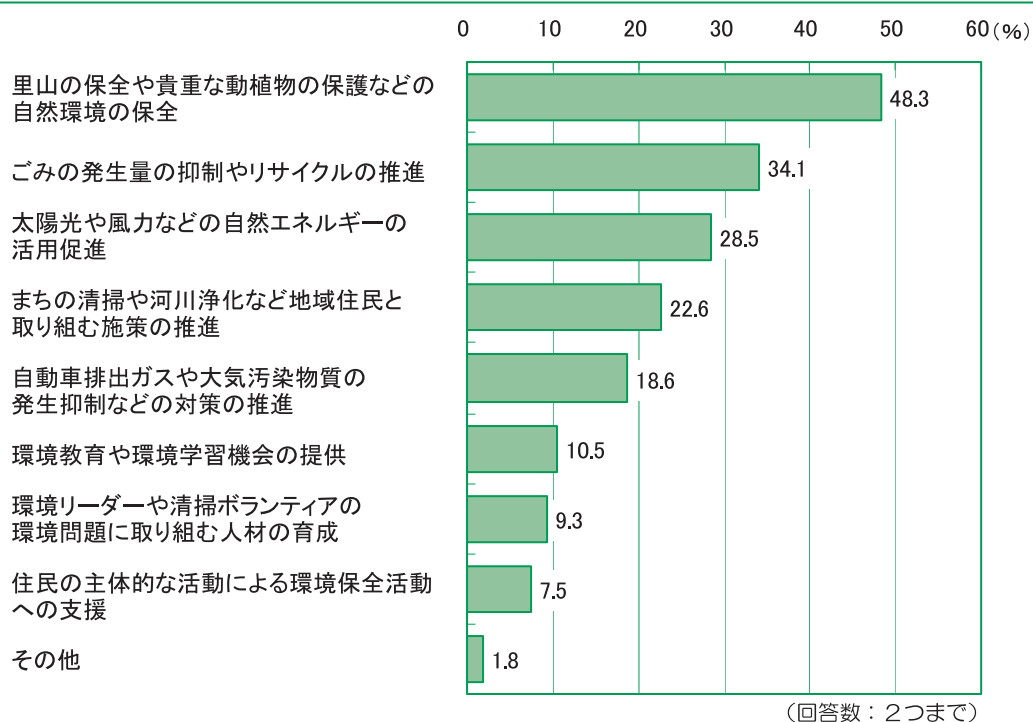
長久手中央地区は、平成17年3月に東部丘陵線（リニモ）が開通したことにより、開発のポテンシャルが高まりました。特に長久手古戦場駅周辺は、町の顔となる地区として土地区画整理事業により整備を進める予定です。

長久手町の顔となるべきこの地区は「ショッピングやアミューズメント施設などの整備」への期待が最も多くなっています。



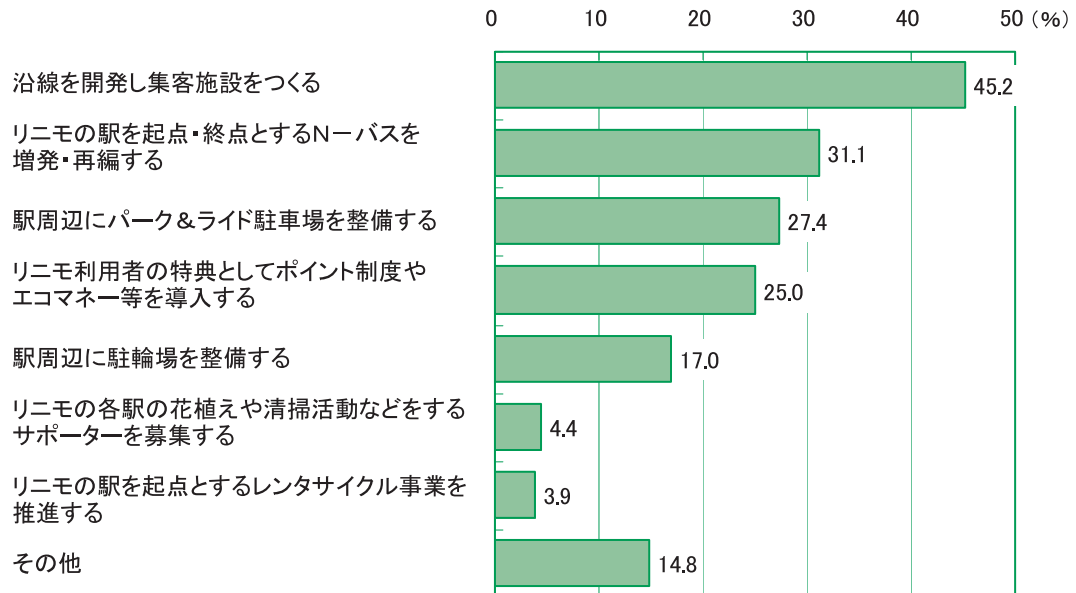
万博理念継承として優先すべき環境施策

万博の理念を受け継ぐ町の環境施策として優先すべき課題は、「里山の保全や貴重な動植物の保護などの自然環境の保全」が最も多く、「ごみの発生量の抑制やリサイクルの推進」「太陽光や風力などの自然エネルギーの活用促進」「まちの清掃や河川浄化など地域住民と取り組む施策の推進」と様々な取り組みへの期待が高くなっています。



リニモの利用促進

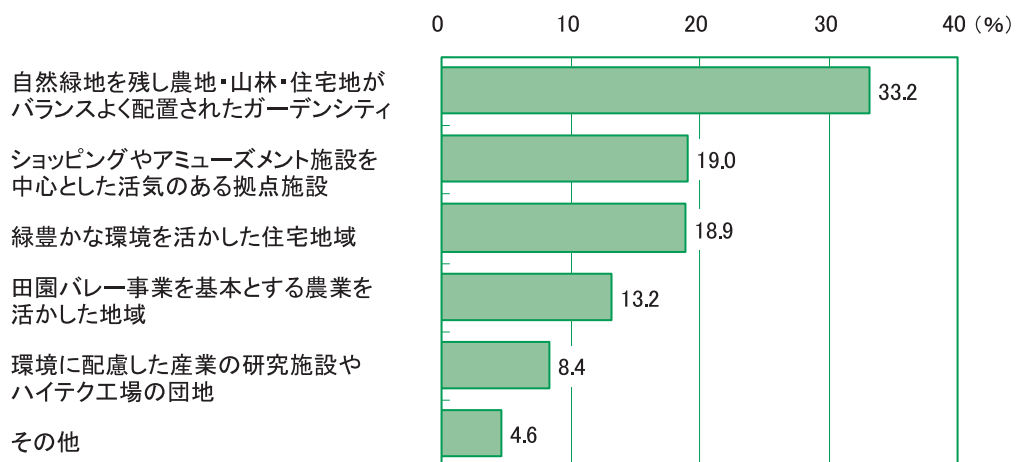
住民の貴重な交通手段としてリニモの利用促進を図るために、町が取り組むべき施策は、「沿線を開発し集客施設をつくる」が最も多く、「N - バスを増発・再編する」「パーク＆ライド駐車場の整備」「ポイント制度やエコマネー等の導入」が続いています。



(回答数：2つまで)

リニモ沿線東部地域の土地利用

リニモ沿線のうち、町内の東部地域（長久手古戦場駅以東）では、今後の土地利用について、「自然緑地を残し、農地、山林、住宅地がバランスよく配置されたガーデンシティ」への期待が最も多くなっています。



(回答数：1つだけ)

■お問い合わせ先： 長久手町 経営企画部 企画課 TEL (0561) 63-1111 (内線204)

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています